

「集団の部」 全国農業協同組合連合会長賞
農事組合法人 ふるさと吉見 (山口県宇部市)

1. 集団及び経営内容

吉見地区は山口県宇部市の西部に位置し、南を厚東川、北を山林で囲まれた中山間地域である。近年、農業者の高齢化・兼業化が急速に進展しており、次代を担う農業者の確保、効率的で持続性のある水田農業の展開のため、2年前に「元気なふるさとをこどもたちにつなげよう！～楽に楽しく皆で利益を生み出そう～」をスローガンに農事組合法人ふるさと吉見が設立された。

当法人は水田3,683aのうち水稻2,371a(うち加工用米1,076a)、小麦1,074aの小麦作を中心に野菜(にんじん、じゃがいも、かぼちゃ、たまねぎ、キャベツ)を取り入れた複合経営で積極的な規模拡大を図り、地域農業の中核組織及びリーダーとして活躍している。

2. 技術上の特色

大型機械を駆使した大規模経営でコスト低減を行いながらも、全ほ場を巡回で丁寧に観察し、基本技術の忠実な励行を基本とした、ほ場状態に応じたきめ細やかな管理により、単収・品質の高位安定化を実現している。

(1) 排水対策・土づくり

中山間地特有の粘土質土壌であり、排水不良のほ場が多い中、弾丸暗渠、額縁明渠等の施工による徹底した排水対策に加え、地主の許可が得られたほ場についてはバックホーによる耕盤破壊によりさらなる排水性の向上を図っている。

また、JAの土壌診断に基づいた深耕、良質堆肥の施用等による積極的な土づくりを行っている。

(2) 播種・踏圧

土塊ができやすい粘土質土壌であるため、出芽不良を起こさないよう、播種深度約1cmを目標として浅く均一になるよう細心の注意を払いながらの播種作業を実施し、発芽不良を最小限に抑えている。

また、地域全体として麦作には踏圧が最重要との認識の下、乗用管理機による踏圧2回を基本として行っている。

(3) 雑草及び病害虫防除

ブロックローテーションには数年に一度は必ず水稻・野菜を組み入れ、麦の連作となる際は夏に必ず水を張り、雑草抑制に努めている。また、乗用管理機による中耕を行うことでも雑草抑制に努め、除草剤使用回数、除草作業の低減につながっている。

赤カビ病については、JA指導による適期防除を必ず行い、安全・安心な麦作に取り組んでいく。

(4) 収穫

収穫時期の降雨による単収・品質低下防止のため、丁寧なほ場巡回により注意深く観察し、適期収穫の徹底を図っている。

3. 収穫量の向上、品質改善

28年産麦は1月中旬～3月までの生育後半の頻繁な降雨により、根腐れや枯れ熟れが多く、ほ場で発生した。品種は大粒のマンネンボシで10a当たりの収量は336k

g/10aであり、JA周桑28年産平均収量（221kg/10a）、愛媛県平成28年産平均収量（206kg/10a）を上回った（163%）。品質においても、1等比率90.7%であり、愛媛県28年産平均1等比率84.4%を大幅に上回った。

4. 労働時間の軽減

中山間地の不整形、矮小なほ場が多く、排水管理、鳥獣害対策、ほ場間移動等が容易ではない中、全ほ場巡回での丁寧な観察による高い計画性の下、ブロックローテーションによる土地利用集積、播種時の施肥・除草剤同時処理、大型乗用管理機による追肥・病害虫防除の同時作業、能力別の適所配置による作業の高精度化・効率化等により労働時間の軽減を図っている。

その結果、10a当たりの所要時間は約6.5時間と県平均8.0時間を大きく下回った。

5. 流通の改善、合理化

同法人の所属する山口宇部農業協同組合宇部西部管内では、JAの共同乾燥調製施設で乾燥調製を行っており、品質の均質化と乾燥調製の合理化に取り組んでいる。

また、生産される小麦や野菜については学校給食向けを中心に出荷し、積極的に県内の食材を利用する地産地消に貢献している。

6. 今後の麦作への取り組み

今後、地域の水田農業の維持・発展に向けて、大型機械一貫作業により効率化を進めつつ、栽培面積を次年度1,200a、2年後1,500a、最終的には2,000aの麦作団地化を目指している。

また、品質面については、県の栽培指導を忠実に励行し、等級は全量1等となったが、パン用小麦として重要な子実タンパク質含有率は10.9%と基準値に満たなかった。29年産小麦については全体的に子実タンパク含有率が低い傾向であり、その要因については関係機関等で分析中ではあるが、今後は全量1等を維持しつつ、子実タンパク含有率をさらに向上できるよう、引き続き基本技術を徹底しつつ、開花期の追肥の徹底等に努めていく。

7. その他特記事項

同法人は次代を担う農業者の確保、効率的で持続性のある水田農業の展開のため、2年前に「元気なふるさとをこどもたちにつなげよう！～楽に楽しく皆で利益を生み出そう～」をスローガンに設立された法人である。

持続性のある展開のためには若い人材を取り入れることが重要であり、そのためには収益性の高い経営が必要であるとの考えの下、野菜栽培による経営の多角化・周年化、生産物の調理・加工への挑戦、販売部を設置して積極的なイベントへの出店等を行っている。構成員は60代、70代が中心であるが、40代、50代の農業者もおり、また構成員の息子等の家族も農作業・イベント等に積極的に協力する体制ができています。さらに女性構成員も多く、各種活動への積極的な参加を行っており、さらなる活性化のための法人役員への女性の積極的な登用等を検討している。

また、子供たちがふるさとへ愛着を感じてもらうため、学校給食への食材提供、田植え、稲刈り、野菜の収穫等の農作業体験イベントの実施等、積極的な食育を行っている。

同地域も現在日本各地で問題となっている中山間地での高齢化・担い手不足等

を抱える地域でありながら、遠い将来を見据え、地域を守っていくという大きな目的のため、意欲的に様々なチャレンジを行っている、今後日本各地のモデルとなり得る将来性のある法人である。